

令和元年度 自己評価・学校関係者評価 報告書

岐阜県立池田高等学校

学校番号 20

I 自己評価

1 学校教育目標	校訓「向学・友愛・錬磨」の下、明るく規律ある学校生活を通して、「知・徳・体」の調和のとれた人間性豊かな、心身ともに健全な人間形成を期すとともに、持続可能な社会の発展に貢献できる人間の育成に努める。	
2 評価する領域・分野	◇進路指導	
3 現状・生徒及び保護者等を対象とするアンケートの結果分析等	<ul style="list-style-type: none"> 3年先を見越したガイダンスを系統立てて実施しており、四年制大学への進学率は一昨年が31.5%、昨年は39.6%、そして今年は約50%とこの3年で20%近く増加した。国公立大学や公立短期大学への進学率も大幅に増加しており、1学年4クラスになってから過去最高の進路結果となっている。 生徒のアンケート結果では、「本校では、生徒の希望に沿った具体的な進路指導が行われている。」が85.0%の支持を、保護者のアンケート結果では、「学校は、生徒の進路希望に沿った適切なアドバイスをしてくれる」が90.9%と進路実現に向けての「本校指導方針」に対して両者とも高い満足度を得た。 	
4 今年度の具体的かつ明確な重点目標	◇早期の段階における将来への明確な目標設定とそのための援助 ◇自己の能力や適性を鑑み、生徒の主体的な進路選択の促進 ◇進路目標の達成に向けた確かな学力の育成	
5 重点目標を達成するための校内における組織体制	<ul style="list-style-type: none"> 進路指導委員会 教育課程委員会 	
6 目標の達成に必要な具体的な取組	7 達成度の判断・判定基準あるいは指標	
(1) 進路実現に向けて、専門の外部講師による年複数回の体験型進路ガイダンスの実施 (2) 補習の実施形態の見直しと効果的な運用法についての再考 (3) 各種模試や学習支援システムの効果的な運用と、外部専門講師の有機的な活用	(1) ガイダンスに向けた事前・事後指導の後のアンケート調査及び進路希望調査結果。 (2) 「到達度テスト」における各分野の理解度の把握、補習への参加状況や生徒の満足度の調査結果。 (3) 外部模試結果の伸張度や進路状況調査結果。	
8 取組状況・実践内容等	9 評価視点	10 評価
<ul style="list-style-type: none"> 生徒個々の進路設計に向けた、学年毎の系統立った進路ガイダンスや大学見学会の実施 様々な分野へのインターンシップの実施 進学、看護、就職希望者それぞれに対応した各種外部模試の実施 全学年対象の小論文指導と模試の実施 1, 2年生全員(3年生は希望者)の「スタディサプリ」登録に伴う学年体制での指導。 公募制推薦希望者に対する全校指導体制の充実 ゴールデンウィーク中の強化勉強会や、夏季休業中の勉強合宿の実施 平日、週末、長期補習の実施 地域創生キャリアプランナーによる充実した就職支援の実施 	① 生徒が自らの在り方や生き方について考えることができたか。 ② 将来に対する目的意識を持つことができたか。 ③ 生徒の実態にあった指導であったか。 ④ 適切な情報提供をすることができたか。	A B C D A B C D A B C D A B C D

11 成果・課題	<p>○生徒の進路実現に向けて、3年間を見通した様々なスタイルのガイダンスを実施した。保護者には学年の枠を越えて、全てのガイダンスに参加できるよう案内を配付し、可能な限り情報提供をする場を設けた。親子で一緒に説明会に参加する姿も見られ、進路について共に考えるよい機会となった。</p> <p>○ゴールデンウィークには岐阜協立大学の協力を得て、2つのキャンパスを使った強化勉強会や看護実習を実施した。夏季休業中にはソフトピアジャパンの1フロアを貸し切り、池田高校初となる勉強合宿を行った。2日目には「卒業生と語る会」も設け、多くの参加者を得た。</p> <p>○2年生対象の大学見学会は、昨年までは8月や11月に実施していたが、少しでも早い時期に進路意識を高められるように時期を早め、6月に滋賀県立大学へ見学にいった。</p> <p>○昨年度までは希望者に対して学習支援システム「スタディサプリ」を活用していたが、今年度は校外模試の見直しを図ることで1, 2年生全員がこれを利用することが可能となった。生徒個々の取り組み状況の把握に加えて、「学習到達度テスト結果」を横並びで活用することで学年全体の苦手分野の把握と対策が可能となった。</p> <p>○今年度より「地域創生キャリアプランナー」が常駐となったことにより、4月初頭の就職希望者全員に対する懇談の実施や、その後の情報提供、出願に向けた書類や面接指導等、継続的な指導を展開した。昨年度の就職先企業にも全て足を運んでいただき、卒業生の就労状況を把握することで指導に役立てた。岐阜県警察、JR東海、JA、日本郵政等、地元の大手企業への内定者を増やした。</p> <p>▲学年毎にそれぞれのカラーや特色があるので、同じ進路指導方針が上手くいくとは限らない。進路課と学年団との更なる情報共有や話し合いを推し進める必要がある。</p> <p>▲生徒の能力を引き出す「きっかけ」となる「自信」、つまり「成功体験」を積めるような「機会」を増やす方策や行事運営方法を考える必要がある。</p>	<p>総合評価</p> <p>A <input checked="" type="checkbox"/> B C D</p>
12 来年度に向けての改善方策案	<ul style="list-style-type: none"> 自らの学習状況やキャリア形成を見通したり振り返ったりしながら、自信の変容や成長を自己評価するための「キャリアパスポート」を効果的に活用することで、新たな学習や生活への意識付けや将来を見据えた生き方に繋がるよう工夫していく。 来年度の「センター試験」から「共通テスト」への移行を始めとし、私立大学においても大幅な入試改革が進められていく中で、我々教師が正確な情報を把握し、的確に生徒に指導・助言が行えるよう新旧3年生担任による情報交換会を年2回実施する。 朝読の時間を利用し、就職希望者が早い時期より就職試験を意識できるようにするため、3年生就職希望者は4月の早い段階で就職対策問題集を購入させ、毎日朝読の時間を使って取り組ませるようにしたい。 3年生の土曜補習に関しては、「スタディサプリ」と「自主学习」の2コースを展開しているが、「学習到達度テスト結果」を効果的に活用するため、参加者が同一の講座を視聴するのではなく、生徒個々に合わせた講座を視聴させ、その進捗状況について継続的な管理・指導を行っていけるよう工夫する。 	

II 学校関係者評価

実施年月日：令和2年2月13日

【意見・要望・評価等】

- 先生方が、生徒ひとりひとりの「夢」に対し、一生懸命サポートしてくださっていることがよくわかる。高校時代に、将来の進路を決めるのは難しいことだと思うが、あらゆる情報、あらゆる体験をする場が多くあるのは素晴らしいことだと思う。就職を考えて参加するだけでなく、ボランティアとして参加したことがきっかけで、保育士になりたいとか弁護士になりたい…とか、あらゆる体験の場に多くの生徒が参加してくれるといいと思う。また、その体験を多くの他の友達、後輩に伝える場も多くあってほしい。
- 生徒に自信をもつ機会をつくるのはすばらしい試み！看護に特化せず、リハビリや介護にも、生徒の内心や特性に応じて進路を選択できるように指導してほしい。

- 生徒、保護者対象アンケートは指導方針に対して高評価だったのはすごいと思う。評価だけでなく、進学率の数字にも現れていて、先生方のご指導の賜物と思う。
- 大学見学会や、インターシップの実施、スタディサプリの導入そして、何より個々の生徒と向き合いしっかり個別指導されていることが結果として現れたと思う。又、進学だけでなくキャリアプランナーによる就職する生徒への適切な指導も評価される。